

コミュニティ・スクールの実効性を高める運営のあり方

霜川 正幸・静屋 智

Management for Effective Community Schools

SHIMOKAWA Masayuki, SHIZUYA Satoru

(Received August 6, 2014)

キーワード：学校運営協議会制度の意義、準備段階、当事者意識、共通理解、組織形成

はじめに

各地の公立学校においてコミュニティ・スクール化の動きが加速している。平成26年4月1日現在、全国では、42都道府県187市区町村において1,919校（前年度比349校増）がコミュニティ・スクールに指定され、学校・家庭・地域社会の協働による学校運営をとおした子どもの教育や健全育成に取り組んでいる。その内、実に1,130校が平成23年度以降に指定された学校であり、その加速度には目を見はるものがある。特に、小・中学校においてコミュニティ・スクール化の動きは激しく、小学校では前年度比212校増の1,240校が、中学校では102校増の565校が指定されている。¹⁾

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校が教育委員会から委員として任命された保護者、地域住民や幅広い教育関係者を構成員とする「学校運営協議会」を設置し、一定の権限と責任、子どもたちの教育や健全育成等に対する当事者意識をもたせながら、積極的に学校運営に参画させる新しい学校運営の仕組みである。

我が国の学校における今回のコミュニティ・スクール化の動きは、教育改革国民会議報告「教育を変える17の提案」（2000.12）、文部科学省「21世紀教育新生プラン（レインボー・プラン）」（2001.1）に始まる。翌年度から「新しいタイプの学校運営のあり方」に関する研究指定校で実践研究が行われ、総合規制改革会議答申「規制改革の推進に関する第3次答申」（2003.12）、中央教育審議会答申「今後の学校の管理運営の在り方について」（2004.3）等での具体化を経て、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（2004.6）により法的根拠が与えられ制度化されたものである。その後、全国各地に拡大し、「第2期教育振興基本計画」（2013.6閣議決定）において、コミュニティ・スクールを全公立小中学校の1割（約3,000校）に拡大することが推進目標として示されたこと、中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について（答申）」（2013.12）が、「今後、学校運営の充実や、学校・家庭・地域の協働体制の構築に向け、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部等の一層の拡大と充実が必要」、「設置数は共に順調に増加しているが、導入の状況には地域差もあることから、引き続き未導入の地域を中心とした支援を着実に推進する」と指摘したこと、市町村合併や少子化に伴う学校規模適正配置等の教育課題と今後の地域再生・地域づくりのあり方等地域課題の融合的解決をめざす自治体の動向等を背景に急速に増加していると考えられる。

そのような全国的動向において、山口県では、小・中学校457校中366校、実に80.1%が指定され、特に山口・美祢・宇部・光・周南・長門・防府・柳井の8市教育委員会並びに平生町教育委員会は、所管する全ての小・中学校をコミュニティ・スクールに指定する等、その指定率、指定状況においては全国最先進と云える取組が進められている。

1. 問題意識と本稿で整理する内容

筆者は、平成21年度以降、山口県光市教育委員会による「文部科学省コミュニティ・スクール推進事業」

アドバイザーとして調査研究校（光市立浅江・島田中学校）に関わるとともに、県内3市9校の学校運営協議会等委員として、また10市3町の学校や教育機関、教育関係団体等の研修指導者として、各コミュニティ・スクールの実際にふれてきた。その中で、コミュニティ・スクールには、各地の学校や地域の実情に応じて、各学校や地域らしい「形（理念、方向性や取組の具体等）」があることが当然という前提に立ちながらも、その実際の「動き（取組内容、参画者の数や関わり方、地域との相乗度合、総体としての雰囲気や勢い等）」には大きな差が出てきたと評価している。

一方には、子どもたちや教職員だけでなく保護者や地域住民（既に縁のある子どもが在学していない住民も含めて）が、学校に集い、子どもたちや教職員と交わり、教育や子育ての当事者意識を持ちながら、教育活動の拡充や地域の活性化を、共に楽しみ、共に創造しているコミュニティ・スクール（学校）がある。

その一方では、コミュニティ・スクール自体が目的化され、学校管理職と一部の保護者や少数の地域名士が集い、従前の学校評議員会や拡大PTA会議をリメイクした形で、前年度踏襲型学校運営を行う学校（筆者は「なんちゃってコミスク」と呼んでいる）も残念ながら存在する。

今次のコミュニティ・スクールの動きは、現代の子ども、教職員、学校の現状と課題、地域（学校・家庭・地域社会）が有する諸課題をふまえ、子ども一人ひとりの夢の実現と地域教育力の活性化による豊かな教育的風土の醸成という確かなベクトル上にあり、今後の大きな教育的潮流であることは論を待たない。地域の教育を、従来の「上意下達型」から「草の根型」に変える大胆な発想転換であり、「教育の分権化」、「教育版地方分権」と言われる理由はここにある。地方自治は団体自治と住民自治からなり、団体自治は学校や教育委員会の機能強化、住民自治は意見反映等の住民参加が基本となる。学校単位で、地方自治を具現化しようとする試みがコミュニティ・スクールであり、学校の自立性、自主性を如何に高めるかがポイントである。であるならば、コミュニティ・スクールに取り組む学校は、この学校改革の動きに対して、大きな関心と望みをもって見つめている地域の期待を裏切ってならない。この取組の過程で信頼を失うことがあれば、「地域とともにある学校」、「地域コミュニティの核となる学校づくり」がトーンダウンするだけでなく、学校を中心とした教育的風土、豊かな地域社会が根本から崩れていく危険すらあると指摘する。

筆者は、今こそ、取組が急加速している今であるからこそ、「山口県内にあるコミュニティ・スクールの成功例」と評され、県内外から多数の視察者、報道取材等を受ける光市立浅江中学校コミュニティ・スクール「あさなえネット」に学ぶべきことは多いと考えている。本稿ではその先進性を中心に報告する。

2. 光市立浅江中学校コミュニティ・スクール「あさなえネット」の概要

2-1 光市立浅江中学校と校区の概要

光市立浅江（あさえ）中学校は、光市西部、東西に走るJR山陽本線と一級国道188号を中心に展開する交通・商業集積地とその周辺に位置する住宅地、並びに瀬戸内海に面し白砂青松で知られる虹ヶ浜海岸等の観光資源に恵まれた浅江地区を校区とする中規模校である。平成26年度現勢は、学級数13（特別支援学級1を含む）、生徒数335、教職員定数（県費負担教職員）26である。²⁾「文武両道」で知られ、「学習状況調査」状況や進路状況に見られる学習面、五輪選手（陸上競技2人）の輩出、全国中学校駅伝競走大会優勝や光市無形民俗文化財「周防猿まわし」創設者の輩出等の部活動（芸術・文化）面や中学生らしく日々清々しい生活面等、全ての面で極めて評価が高い学校と言える。

校区全域と重なる浅江地区は、平成25年3月31日現在、人口14,939人、世帯数6,532戸であり、平成2年度との比較において人口205人減、世帯数1,468戸増と核家族化の進行が著しい地域³⁾であるが、校区内に、1保育所・1小学校・1中学校・1高等学校という「育ち・学びの縦ライン」があり、以前から教育や子育てに熱心な地域でもある。また、浅江公民館を中心として浅江地区自治会連合会、浅江地区社会福祉協議会、青少年健全育成浅江地区会議や浅江やろう会、浅江小おやじの会・浅江中おやじの会、子ども会、スポーツ少年団や婦人会等様々な地域行政・福祉・教育関係団体等の活動も活発である。

2-2 光市立浅江中学校コミュニティ・スクール「あさなえネット」の概要

(1) コミュニティ・スクールとしての歩み

光市立浅江中学校は、平成21・22年度の文部科学省「コミュニティ・スクール推進事業」調査研究校であるが、その調査研究期間を「コミュニティ・スクール設立準備期間（助走期間）」とし、推進組織を立ち上

げ取り組んできた。後に項立てして示すが、この準備期間の扱い方、実践の具体から学ぶべきことは多い。

平成21年度は、「コミュニティ・スクールを理解し形をつくる年度」として、7回の推進委員会において方針作成、計画づくりと推進体制整備等を行い、推進委員会対象・教職員対象の研修会や全体講演会で理念的・具体的な理解や先行実践の習得に努め、先進地視察（京都、福岡、熊本、島根）をとおして学校・家庭・地域社会のつなぎ方を深める等、設立（受指定）に至る過程に必要と考えられる協議・研修・試行を、段階を追い、時間をかけ積み重ねてきた。また、コミュニティ・スクールの名称（あさなえネット）やマスコットキャラクター（つながりん）等の決定、生徒会活動と連動した生徒や保護者等への意識づけ等も行った。

平成22年度は、「コミュニティ・スクール運営をシミュレートする年度」とし、翌年度（指定後）を想定した試行的取組を行っている。4回の企画推進委員会と引き続き4回の運営協議会、3つのプロジェクト部会（学力向上・心の教育・体力づくり）による実践等を積み重ねながら形に中身を入れてきた。

平成23年度には、光市教育委員会より光市における最初のコミュニティ・スクールとして指定され、現在まで質量共に拡充させながら4年目を迎えている。

(2) 「あさなえネット」の概要

「あさなえネット」の運営組織図（図1）、構成委員等一覧（図2）を示す。運営組織は、「学校運営協議会」、「企画推進委員会」、「プロジェクト部会」から成る。

最上位に位置づけられる「学校運営協議会」は、子どもの育ちと学びを系統的に支えるねらいから保育所（園長）と小学校（校長）、地域ぐるみの教育・子育てを多面的・多角的に支えるねらいから地域の教育・行政・福祉関係機関・団体・企業等（組織長）、教育・子育て当事者である保護者（PTA代表）と校長の11人で構成され、年4回の会をとおして、教育課程の編成等校長が作成する学校運営の基本方針の承認、学校運営に関して教育委員会や校長に対する意見の表明や地域に対する啓発等を行っている。

「企画推進委員会」は、「学校運営協議会」に上程すべき議題の検討や取組の原案作成等を行う機関であり、「学校運営協議会」の1～2週間前に開催される。多種多様な生徒活動、特に地域を巻き込んだ取組やプロジェクトを中核的に動かす「実働部隊」であるが、それ以上に「プロジェクト部会」と「学校運営協議会」をつ

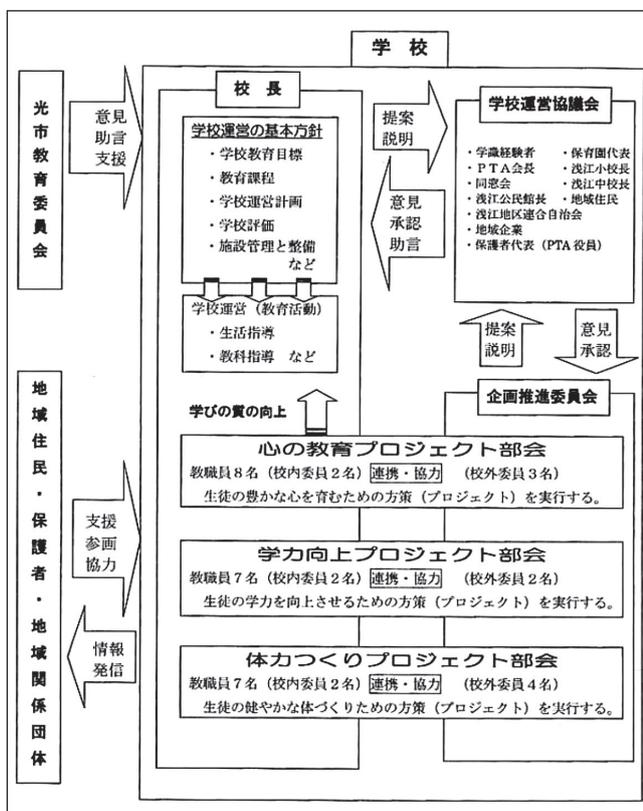


図1 運営組織図

学校運営協議会委員		企画推進委員	
1	学識経験者	1	校外委員
2	PTA代表	2	校外委員
3	浅江公民館	3	校外委員
4	浅江地区自治会	4	校外委員
5	同窓会	5	校外委員
6	地域住民	6	校外委員
7	地域企業	7	校外委員
8	保護者代表	8	校外委員
9	保育所代表	9	浅江小教頭
10	浅江小学校長	10	浅江中教頭
11	浅江中学校長	11	校内委員 (教務主任)
12		12	校内委員 (研修主任)
		13	校内委員 (生徒指導主任)
プロジェクト部会担当		アドバイザー	
1	心の教育部会(校外)	1	山口大学教育学部准教授
2	心の教育部会(校外)	2	光市教育委員会学校教育課
3	心の教育部会(校内)	3	光市教育委員会人権教育課
4	心の教育部会(校内)		
5	心の教育部会(校内)		
6	学力向上部会(校外)		
7	学力向上部会(校外)		
8	学力向上部会(校内)		
9	学力向上部会(校内)		
10	体力づくり部会(校外)		
11	体力づくり部会(校外)		
12	体力づくり部会(校外)		
13	体力づくり部会(校内)		
14	体力づくり部会(校内)		
		コーディネーター	
		1	校外
		2	校内
		3	校内

図2 構成委員等一覧

なぐ調整的役割を果たす「クッション機関」である。3つの「プロジェクト部会」から出てくる企画、アイデアやプログラム案は質量共に豊富で新鮮であるが、それらを実施するか否かにあたっては、学校サイドにあっては、生徒の成長・学習段階や状態等をふまえ、細心の教育的配慮の元に判断される必要がある。

同時に、地域サイドにあっては、人材発掘と開発、周到な根回しや緻密な段取り等が必要であり、「企画推進委員会」は、それらの判断と実効的なプログラミングに関する調整機能を有している。

「プロジェクト部会」は、「コミュニティ・スクールを理解し形をつくる年度」の協議・研修から産まれた組織である。教職員、保護者や地域住民が少人数編成のグループワークの中で、「めざす生徒像」、「身につけさせたい力」や「求める学校像」等を熟議し、その結果、「心の教育」「学力向上」「体力づくり」の3つの「プロジェクト部会」が立てられ、それぞれの領域で扱われるべき内容や活動に関する多様なアイデア、企画等が生み出されている。なお、この「プロジェクト部会」には担当教員が置かれ、学外部員とともに協議等を行っているが、実際には、浅江中学校の全教職員が「プロジェクト部会」に分かれて所属すること、学外委員と会い程よい距離感で話し合いや意見交換ができるよう配慮されていること、中学校の校務分掌や研修部会を3つの「プロジェクト部会」と整合させ相乗的に再編成していることは特筆すべき事項である。

会議の状況、取組や生徒活動等の実際については多岐にわたることから、平成26年度計画表(図3・4)に示す。また、浅江中学校ウェブページを参照願いたい。(http://asae-j.hikari-net.ed.jp/)

	活動	内容
4	8(火) 第1回企画推進委員会 19:00~	①企画推進委員の委嘱 ②平成26年度浅江中学校学校経営方針の確認 ③学校運営協議会委員の確認 ④「あさなえネット」の活動内容の検討
	15(火) 第1回学校運営協議会 19:00~	①学校運営協議会委員の委嘱(市教委) ②会長、副会長選出 ③議事 ・平成26年度浅江中学校学校経営方針の確認 ・あさなえネット規約の承認 ・「あさなえネット」の活動内容について協議・承認
5		
6		
7	1(火) 第2回企画推進委員会 19:00~	①浅江中学校の現状について ②「あさなえネット」の現状について 夏休み以降のプロジェクト確認
	8(火) 第2回学校運営協議会 19:00~	①浅江中学校の現状について ②「あさなえネット」の現状について 夏休み以降のプロジェクト確認
8		
9		
10		
11	4(火) 第3回企画推進委員会 18:30~	①「あさなえネット」の実施状況について ②前期学校評価について
	11(火) 第3回学校運営協議会 18:30~	①「あさなえネット」の実施状況について ②前期学校評価について
12		
1		
2		
3	10(火) 第4回企画推進委員会 18:30~	①後期学校評価について ②平成26年度事業実施状況 ③プロジェクト部会ふりかえりと次年度活動について
	17(火) 第4回学校運営協議会 18:30~	①後期学校評価について ②平成26年度事業実施状況 ③プロジェクト部会ふりかえりと次年度活動について

図3 学校運営協議会・企画推進委員会

月	あさなえネット計画	主な学校行事	地域との関連【あさなえネット】
4	8(火) 第1回企画推進委員会 15(火) 第1回学校運営協議会	始業式 入学式(8日) 市春季体育大会(12日・13日) 家庭訪問(16日~21日) PTA総会・部活動懇談(26日)	あいさつ運動(毎月) 地域の巡回バトロール (毎月2回開催日) ポスター作成(バソコン部)【学】
5		1年宿泊研修(11日~13日) 春季県体(17日18日) 2年職場体験学習(21日~23日)3 年修学旅行(22日~24日) 定期テスト(30日)	潮音寺山まつり(18日)【心】 あさなえ元気クラブ【体】 青少年部研修会(21日) あさなえテスト勉強会【学】 27日・28日
6		教育実習(2日~20日) 生徒総会(12日) 選手権予選(7日~8日) 人権参観日(28日)	
7	1(火) 第2回企画推進委員会 8(火) 第2回学校運営協議会	定期テスト②(1日・2日) クラスマッチ 保護者会(15日~17日) 市秋季体育大会(26日~27日)	クリーン光大作戦(13日) あさなえ人権セミナー(3回) 小学生水泳指導【体】 子どもキャンプ(28日29日) あさなえ学習会【学】30日・31日
8		市陸上大会(2日)(光高) 除雪作業 浅江小・中地区懇談会 課題テスト(28日)	サング・アート発表(10日)【学】 納涼盆踊り大会(16日) 部活動活性化プラン【体】 ヘルシープラン【心】 あさなえ学習会【学】 竹細工【心】 浅江小・中地区懇談会
9		体育祭(7日)	敬老と福祉の集い(14日)【心】 (プレゼント、炊き出し) あさなえ大運動会(28日)
10		秋季県体(4日・5日) 市新人体育大会(11日・12日) 定期テスト(17日) 文化祭(25日・26日)	響け! 歌声【学】 小学生陸上指導【体】 市民体育大会(13日)
11	4(火) 第3回企画推進委員会 11(火) 第3回学校運営協議会	県中駅伝(15日)	浅江地区青少年健全育成大会 部活動見学【体】 ふれあい元気マラソン(16日)【体】 ようこそ先輩
12		定期テスト(1日・2日) 全国中学校駅伝(14日) 保護者会(17日~19日)	潮音寺山点灯準備(6日)【心】 ヘルシープラン【体】 潮音寺山点灯式(8日) 部活動活性化プラン【体】 迎春準備(25日)【心】 あさなえ学習会【学】
1		光市駅伝大会(11日) 参観日・学校保健委員会(23日) 教育相談進路相談 3年学年末テスト(26日)	掃除に学ぶ【心】 松林清掃活動(25日)【心】
2		私立入試 公立推薦入試 浅江中学校入学説明会(3日) 立志式 1・2年学年末テスト(26日・27日)	お別れバスハイク(7日) 中学校入学説明会(3日) サンホーム学習支援【学】
3	10(火) 第4回企画推進委員会 17(火) 第4回学校運営協議会	公立入試(10日) 同窓会入会式 卒業式(12日) 保護者会(1,2年) 新入生入学 修了式(25日) 離任式(31日)	ふれあい授業【心】

図4 全体計画

3. 実効性を高める運営のあり方 ~「あさなえネット」の先進性、先進的取組~

本段では、筆者が、「あさなえネット」が生徒や教職員から、また学外者から高い評価を受ける所以(先進性、先進的取組)と考え、各地コミュニティ・スクールの実効性の向上につながると確信する事項について整理する。

3-1 コミュニティ・スクール指定前(場合により指定後早期)の取組を大切にす

既に「2-2 光市立浅江中学校コミュニティ・スクール『あさなえネット』概要」の「(1)コミュニ

ティ・スクールとしての歩み」でふれたように、浅江中学校「あさなえネット」は2年間の設立準備期間（準備期間としては1年）を置いている。その設立準備期間中に、コミュニティ・スクール指定後のスムーズな運営を支える貴重な取組や作業を行っており、その段取りを丁寧に追った実践に学ぶこと＝教訓は多い。

(1) コミュニティ・スクールとしての「ベクトル」を共有する

言うまでもなく、親（保護者）にとって子どもは「宝」である。同時に、教育の専門職である学校教職員や、将来の有為な後継者を育てるといふ点では地域住民にとっても子どもたちは「宝」である。「地域ぐるみで子どもを育てる」ことは、国民全体が子どもたちの教育や子育て全般にわたり「当事者意識」を持ち、「無関心ではいけない」感を共有することである。関心を持つ全ての人たちが子どもたちの成長や学びのロードマップについて判断規準・基準や方向性「ベクトル」を共有することであり、そのための運営スタイルとしてコミュニティ・スクールはある。

同時に、現在で多くの小・中学校で様々な学校支援ボランティアが活動している。学習・授業支援、読み聞かせ・図書館運営、放課後活動補助や登下校見守り活動等、「学校支援地域本部事業」や「放課後子どもプラン」等に関係するボランティアスタッフは多種多彩大量である。しかし、一部の学校では、それぞれの学校支援ボランティアが同じ「ベクトル」に向いていない、学校や他団体が取組の際に大切にしている教育的意図、子どもたちの現状や課題の理解等に気をかけることなく「やりたいことをやりたいようにやる」姿が見られる。こういった学校では、「学校は学校だけで学校教育目標を達成しようとしている」傾向も強い。大切なことは、めざす方向・目標や具体的計画等の「ベクトル」を共有することである。学校だけで達成できない教育課題が拡大する現代であるからこそ、学校・家庭・地域社会は「ベクトル」を共有し役割分担を明確にした上で連携協働すべきである。そのことは取組への参画の容易さにもつながる。

浅江中学校「あさなえネット」は、設立準備期間中（指定後も不断に）、「ベクトル」を立て共有する作業を丁寧にを行い、「当事者意識」の醸成につなげている。その実践（作業シート）の実際を紹介する。（図5）

第3回コミュニティ・スクール推進委員会

コミュニティ・スクールを動かすに当たり考えたいこと!

前回、8月18日の会で、皆さんは、ビジョンの作成のこと、実態把握のことや教育資源の洗い出しのことを話しあわれ、いよいよ、組織づくり、具体的な計画づくりに向かっておられます。「お見事」「さすが浅江地区」と感じます。この間のご理解ご協力本当にありがとうございます。

そこで今日、皆さんは、離陸直前の飛行機「コミュニティ・スクール号」の機長さんのようなもの。今、さつそうと滑走路に進入しました。管制塔からの許可も出ました。

と.....ここで一瞬停まって、見事に飛び立って、子どもたちと素敵な旅ができるようエンジンとタイヤのチェックしましょう!

1 お手元に、マジック1本、黄色とピンクのフセンが行っていますか？フセンは6枚あります。

2 まず、「黄色」のフセンに、次のことを5～6枚、1枚ごとに違う内容を考えて、大きめの字で書いて下さい。5～6通りのアイデアが出ます。

あなたは、浅江中の子どもを、どんな子ども、どんな人間にしたいですか？ どういう力や能力をつけさせたいですか？ 何でも自由にお書き下さい。

・例えば...「誰にでもきちんと挨拶でき、礼儀、マナーを持った人にしたい。」「やはり、基礎学力を持って、いろんな情報に流されない子がいい。」「体力と運動能力よ。部活大好き人間に悪い者はおらんから。」などなど



3 次に、「ピンク」のフセンに、次のことを5～6枚、1枚ごとに違う内容を考えて、大きめの字で書いて下さい。5～6通りのアイデアが出ます。

そのために、あなたは、浅江中の子どもに、学校や地域で、どんなことをさせたいですか？する必要はあると思いますか？「黄色」のどのフセンに関することでも結構です。夢や理想大歓迎です。子どものためになることなら何でも、遠慮せずに自由にお書き下さい。

・例えば...「放課後に高校生ボランティアを入れて、授業に遅れがちな子どもに教えて貰ったら？教えることで高校生の勉強にもなるし。」「地元企業の研修担当を呼んで、浅江中マナーアップ講座をしたら？挨拶とか地域の雰囲気も良くなるでしょう。」「浅小、浅中、光丘という学校のつながりを大切にさせたら？浅小の子が浅中の授業参観したり、浅中の子が光丘の子と一緒に地域活動したり。結構お互いに刺激になりそうなので...」などなど

4 では、グループに分かれましょう。6人程度のちょうど良い感じです。

5 () 順に行きましょうか。順番に、まず、「黄色」のフセンを2枚、自分がそう思った理由を話しながらかいていきましょう。次の人も同じく2枚、理由を話しながらかいていきます。その時、前の人と同じもの、似たようなものがあれば、その近くに貼っていきましょう。1巡したら、同様に2巡目、3巡目と。発表、発言には反応してあげて下さいね。「なるほど!」「おーっ!」「分かる!」。モットーは「楽しく」! 浅江中の先生方で、貼り付けるフセンを整理しながら進めて下さい。





6 次に、先程と逆の順番で行きましょうか。順番に、「ピンク」のフセンを2枚、台紙の裏面に貼っていきます。自分がそう思った理由も話しながらかいて下さい。アイデア合戦のようなものです。全てのアイデアが財産です。きっと、今後の力、宝物になります。

7 最後に、全体会にもどして、各グループの報告会をしましょう。ごく簡単に結構です。各グループの浅江中の先生で、各グループの発表をお願いします。



図5 「ベクトル」を考えるワークシートの例

(2) コミュニティ・スクールの研修を「地域づくり」や「地域とともにある学校づくり」の中で扱う

現在、学校、教育委員会やPTA等教育関係団体が主催して、「コミュニティ・スクールとは何か」の研修会や講演会が開かれている。筆者もある時は講師として、ある時は受講者として参加するが、その際、コミュニティ・スクールの姿（意義、関係法令、運営協議会の構成・人選・取組の実際等）についてが講演・研修内容となっていることが多い。コミュニティ・スクール登場の背景、文部科学省や中央教育審議会等の報告、学校運営協議会の目的に一通りふれた上で、委員の人選、会の進め方、学校教育活動の利活用の仕方、行事運営のノウハウ等が、先進校の実践事例紹介を元に淡々と進められていく。勿論、コミュニティ・スクールの取組を進めていく際、理解しておくべき内容であり大切であることに異論はないが、これらの研修で身につくことは「コミュニティ・スクールの動かし方」である。子どもたちや学校、地域の実態、課題やコミュニティ・スクールとしての歴史等が全く異なる先進的实践事例から運営のノウハウを学べば、我が校のコミュニティ・スクールが上手く回るという程、子どもたちや学校・地域は簡単ではない。

浅江中学校「あさなえネット」は、推進委員会・学校運営協議会・学校教職員・保護者や地域住民対象と、様々な研修（講演を含む）を行ってきた。その中では、あえて、コミュニティ・スクール「あさなえネット」を如何に動かすか、企画やプログラムの計画・準備・運営・評価を如何に流していくか等の内容ではなく、コミュニティ・スクールの社会的・歴史的背景を学校・家庭・地域社会それぞれの視点から捉えさせ、「新しい公共」理論、自治体（行政等）のまちづくり（地域創生）や「地域とともにある学校づくり」等の視点から考えさせようとしてきた。その土台に立ち、「あさなえネット」の場合は如何に考え、如何に動かさせていくかを考えさせてきたとみている。研修内容項目の一部を以下に示す。

学校・家庭・地域の絆づくりに向けて

- 1 はじめに
- 2 社会の変化、地域づくりの動向とコミュニティー・スクール
 - (1) 近年、特に震災後、クローズアップされてきた地域づくりと「絆」
 - (2) 「新しい公共」理論と実際
 - (3) 国全体の動き、学校改革の取り組みとしてのコミュニティー・スクール
- 3 コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度）とは
 - (1) 新しい公立学校運営の仕組みとしての導入の背景
 - (2) 学校・家庭・地域社会の連携の必要性
 - (3) コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度）の目的と設置等
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）導入の目的
学校運営協議会の設置等
学校運営協議会の権限と委員の配慮事項
学校評議員との違い
- 4 コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度）の運営
 - (1) 学校運営協議会組織の確立
 - (2) 学校運営協議会としての取組
 - (3) 先進地モデル
- 5 これからの学校づくり

コミュニティ・スクールの取組において、教職員の意識改革による主体意識の向上、保護者や地域住民の理解とやる気の拡充による当事者意識の醸成は不可欠である。浅江中学校「あさなえネット」は設立準備期間から積極的に研修に取り組んできた。その方向と実践が、教職員・保護者・地域住民の当事者意識と連帯感を高めたと考え、実践に学ぶべきこと＝教訓と考える。

3-2 コミュニティ・スクールの実効性を高める推進体制を確立する

既に「2-2 光市立浅江中学校コミュニティ・スクール『あさなえネット』概要」の「(2)『あさなえネット』の概要」でふれたが、浅江中学校「あさなえネット」の推進体制の設計に学ぶことは多い。ここでは、項「2-2」で指摘した以外の先進的实践＝教訓についてふれる。（図6）

「学校運営協議会」の委員構成と実際の人選については、校長が原案を作成し教育委員会に具申する形をとっている。委員構成については、「子どもの育ち・学び」を幼（保）小連携、小中連携、中高連携につなぐ「縦の系統」と、「地域ぐるみの教育・子育て」を多角的・多面的な人材ネットワークにつなぐ「横の系統」とでクロスさせる意図を明確にしている、同時に、委員の人選にあっては、単に所属団体・組織等に精通するのみの者でなく、広く地域各界にネットワークを有しコーディネート機能も発揮できる人材を充てている。この点では、学校管理職自身の地域とのつながりや、教育委員会（生涯学習担当部局）や公民館（地域担当主事）等との連携や調整能力が試されると言える。

「企画推進委員会」の設置は、多くのコミュニティ・スクールが、運営組織として「学校運営協議会」意外には設置していないこと、その「学校運営協議会」も公民館長、自治会連合会長等、所謂「充て職」で構成され、「議論はするが動きにつながりにくい」という弊害を克服するためのものでもあり、前項で指摘したとおり大変効果を挙げている。

「プロジェクト部会」は、その部会活動への参画自体が教職員の意識改革につながっており、教職員一人一人にとっては、「為すことにより学ぶ」スタイルの学びである。日々、子どもたちに接している教職員の子ども理解、現状と課題の認識、成長に向けた実践的指導力の向上等「FD研修」として機能し、「学び続ける教師」に向けた職能向上にもつながっている。

また、学校内・外に各1人「コーディネータ」をおいており、地域人材データベースによる人材発掘と活用に向けた連絡調整、学校教職員との橋渡し作業を行っている。

3-3 子どもたち（児童生徒）をコミュニティ・スクールの中心に据える

浅江中学校「あさなえネット」は、「取組はあくまで子どもたち（生徒たち）のためであり、教職員、保護者や地域住民のためにやるのではない」というスタンスを共有している。各種会議では、まずその時点の生徒集団の状況、課題や学校（教職員）の指導の方向等について情報交換される。その後、生徒や生徒集団を巻き込んだ企画、プログラムの検討がされる。会議に参加する全員が、話し合いの中心に子どもたちを置き、その健全育成を考えることからスタートするところに、「あさなえネット」の懐の深さを実感できる。

同時に、子どもたちに、自分自身と「あさなえネット」のつながりを意識させ、常に「地域の中で育てられる自分」を実感させようとする意図が見える。地域の大切さ、感謝の心や地域後継者となる意識等を育てようとする取組は、地域住民の「やりがい」や身近な「地域・社会貢献」に向かう意欲も高揚させている。

浅江中学校「あさなえネット」は「つながり」をキーワードとしているが、最近の「生徒会年間スローガン」を紹介する。全てに「つながり」に関係する言葉が入れられ、生徒たちが、他者や地域との「つながり」を意識しながら、共により良く生きるよう仕組まれている

- ・「地域とつながる みんなとつながる 心でつながる 浅江中」
- ・「心のつながりがちりと みんなの笑顔キラキラと」
- ・「広げよう 光り輝くつながりを 描いていこう 私たちの手で」
- ・「抱け！ 熱く美しき想い つなげ！ 輝く僕らのピース！」

教職員の「声」を紹介する。

- ・「学校行事、生徒会行事と地域行事が重なり、生徒が地域の行事に参加する意義、楽しさや多くの人た



図6 組織構成と活動内容（広報誌より）

ちとの関わり等を学び始めたようである。」

- ・「生徒の活動や評価の場が広がり、生徒たちにとって良い刺激となった。以後の活動に対する意欲がかなり向上したように感じる。」
- ・「生徒たちが教職員や地域の方々との協働を楽しむようになり、行事の企画・運営・評価等に関する力が付いてきた。」

筆者は、各地のコミュニティ・スクール会議において、教員や地域住民が、それぞれの教育観・価値観や子どもに対する感想や思い等を元に、協議を行い取組を組み立てていく場面に遭遇する。大人や指導者の感覚で見事な計画が作成されていくが、子どもたち（児童生徒）の姿が見えないと感じる場面がある。コミュニティ・スクールは、中心的には、子どもたちのためにあることを忘れないようにしたい。

3-4 変わりつつある学校の姿を地域に発信する

浅江中学校や「あさなえネット」に限らず浅江地域の機関・団体等は、情報発信に積極的で、保護者や地域住民にとって読みやすい、見えやすい広報作成の力、技術を有している。

中でも、「あさなえネット」の実践に学ぶべきこと＝教訓は、「(前向きに) 変わりつつある生徒たちや教職員(学校)の姿を知らせ、コミュニティ・スクールの意義や効果を具体的に広げる」姿勢にある。保護者や地域住民にとっては、学校がコミュニティ・スクールとなって、子どもたちが如何に変容しているのか、学校の教育活動や教員の指導等が如何に充実しているのか、コミュニティ・スクールが本当に効果的・実効的な取組なのか等に興味関心があり、それらのニーズと今後の取組につなぐシーズを意識した広報啓発を行っていることである。学校やコミュニティー・スクールの「見える化」は今後も期待するところである。



図7 広報資料「つながり」の例(平成25年度)

3-5 生涯学習、社会教育サイドからコミュニティ・スクールを支える

浅江中学校「あさなえネット」は、「学校運営協議会」、「企画推進委員会」、「プロジェクト部会」関係者の枠の外に、学校・地域外からの「アドバイザー」を設け、その立場で、毎回、光市教育委員会事務局より、学校教育課(課長または主幹)と生涯学習・社会教育関係課より社会教育主事(山口県教育委員会派遣社会教育主事:平成26年度は人権教育課所属)が出席している。このことは極めて特徴的かつ先進的である。

筆者は長年、各地のコミュニティ・スクールに関わる中で、「コミュニティ・スクールとして順調に推移

する（良好に運営される）学校の特徴は、その校区（住民や行政等）の生涯学習力が高いこと」と考えている。地域住民の学校支援活動や参画活動は、学校側からは、学校教育の充実を支援する地域や地域住民でありゲスト的扱いであるが、地域住民の側からは、学校は日常的な生涯学習の評価（活動、発表や貢献等）の場であり、人と人をつなぐネットワーク形成の場でもある。生きがいや趣味・特技の発現の場、豊かな交流による地域づくりの機会でもある。地域住民が「いつでも、どこでも、誰（と）でも、何でも」豊かに学習できる生涯学習について、学校と連携協働し、「関わりが望ましい時に、学校や地域で、子どもたち、先生たちや地域住民たちと一緒に、学校教育活動と連携できる内容で」合法的に豊かに学び合える仕組みがコミュニティ・スクールであり、その関わり自体が地域貢献であり生きがいにつながるものである。社会教育主事は、地域の公民館、社会教育関係団体や地域住民等ときめ細かに関わりながら、浅江地域の生涯学習力を高めている。

また、現在、山口県では「地域協育ネット」のように、学校・家庭・地域社会の連携による地域ぐるみの教育・子育てに資する様々な取組が展開されている。それらとコミュニティスクールを上手くジョイントさせていく能力にも長ける生涯学習・社会教育関係者との協働は必須である。

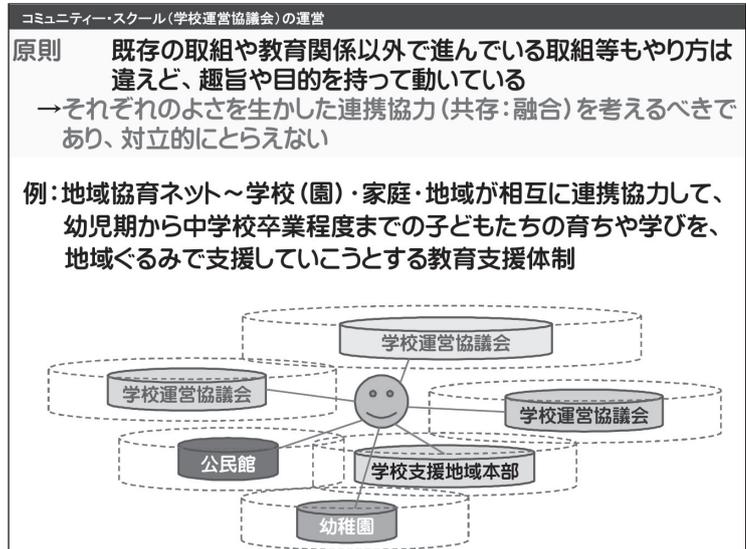


図8 「地域協育ネット」とのつながり

おわりに

本稿では、浅江中学校「あさなえネット」の実践に6年間関わってきた経験を元に、その高い実効性を支える先進的取組から学ぶべきこと＝教訓を整理した。それらを含めて、筆者が考える「実効性を高める運営のあり方」について7項目を示し拙論を閉じる。

- ①各学校により、子どもや地域等の現状や課題等は全く違う
→その「学校らしさ」が一番であり、できることを、できる範囲で、とできることからを大切にする
- ②学校・家庭・地域社会による地域ぐるみの教育がねらい
→常に「ベクトルを揃える」ための話し合い、機会を絶やさない
- ③権限と責任をもち、「当事者意識」をもった学校づくり
→話し合いや実践の過程こそ大切にすべき
- ④「学校だけ」や「一部の保護者、地域代表者だけ」が進める取組は、最終的に浮きあがる
→学校には学校として貫く、守るべきこともあり、多くの教職員の参画こそ必要
- ⑤学校運営協議会で全てをやろうとすると、昨年度踏襲型、形式的取組、学校依存型になりやすい
→実働部隊づくり、多くの教職員の参画こそ必要
- ⑥学校(教職員)、家庭(保護者)、地域社会(住民)等、大人だけのために取り組むことではない
→児童生徒に意識させ、彼らの心や学びにこそメリットがあり、地域の大切さ、感謝、後継者意識等を実感させること
- ⑦既存の取組や教育関係以外で進んでいる取組等もやり方は違えど、趣旨や目的を持って動いている
→それぞれのよさを生かした連携協力(共存:融合)を考えるべきであり、対立的にとらえない

引用文献

- 1) 文部科学省：コミュニティ・スクール, 2014, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm.
- 2) 山口県学校生活協同組合：山口県教職員録(平成26年度), 77, 2014.

3) 光市政策企画部企画調整課：光市統計書（平成25年版）, 2014.

参考文献

光市立浅江中学校学校運営協議会「あさなえネット」配付資料・要項, 2011～2014